

◎ 評価対象分野・施策の方針

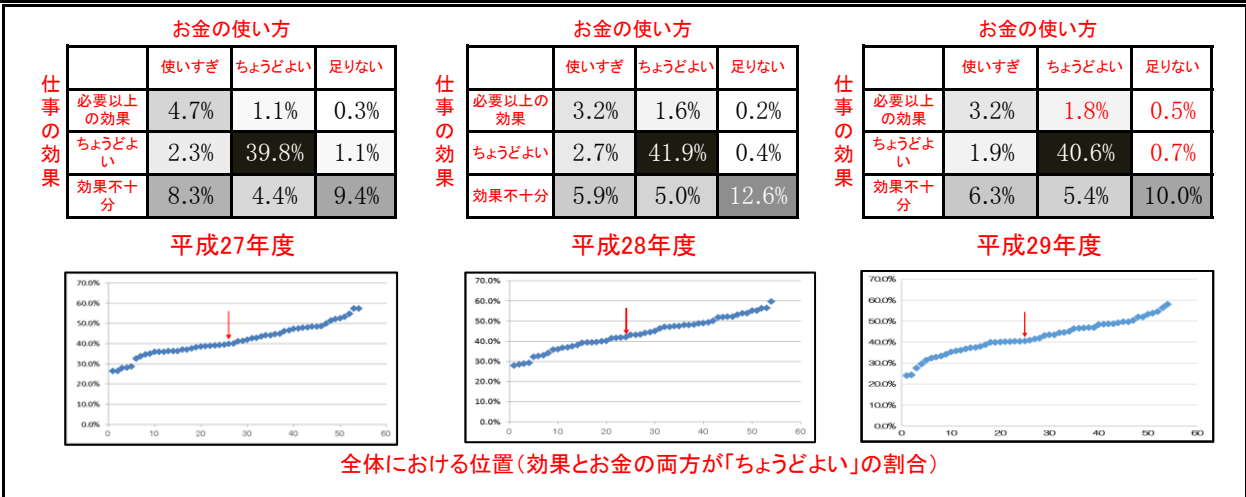
総合計画上の位置付け 計画の推進に向けた考え方 歴史的遺産と共生するまちづくり

1 市民意識調査結果

(1) 認知度

取組を知らない・わからないと答えた人の割合	平成27年度	21.2%	平成28年度	21.1%	平成29年度	25.3%	(回答者全体に占める割合)
-----------------------	--------	-------	--------	-------	--------	-------	---------------

(2) 妥当性



(3) 今後の進め方

	もっと力を入れるべき	現状のままで良い	力を入れなくて良い	無回答
平成29年度	17.4%	40.1%	13.0%	29.5%
平成28年度	20.6%	40.0%	13.5%	25.9%
平成27年度	19.6%	38.2%	15.0%	27.2%

2 内部評価

(1) 平成29年度の目標

歴史的遺産と共生するまちの実現に向けて、鎌倉の魅力や価値を発信する取組や、鎌倉の歴史的遺産を後世に伝えるための事業として次の事業を主体に取り組む。

①世界遺産登録については、神奈川県・横浜市・鎌倉市・逗子市世界遺産登録推進委員会において、平成26～28年度の3年間実施してきた比較研究の成果をもとに専門家等の意見を踏まえ、世界遺産登録に結びつくコンセプトの再構築の検討を慎重に進めるとともに、取組状況について、様々な媒体を活用し、広く、市民等に発信し、登録に向けた機運の醸成を図る。(歴史-01)

②鎌倉市歴史的風致維持向上計画を推進するため、構成事業の着実な実施に取り組むとともに、歴史的風致形成建造物の指定を進めていく。(歴史-02)

③鎌倉の魅力や価値をより深く理解してもらうため、日本遺産いざ鎌倉協議会、関連部局、関連施設との連携を図りながら、日本遺産事業に取り組み、歴史的遺産と共生するまちづくりを推進する。(歴史-03)

※関連事業：
鎌倉歴史文化交流館については、平成29年5月の開館を目指して準備を進め、周辺の住環境に配慮しつつ、市民等に親しまれる魅力的な施設となるよう、市の直営施設として運営・維持管理を行う。また、広報、SNS等において、積極的に施設のPRを行う。

(2) 事業評価結果一覧表(網掛けは重点事業)

評価対象事業名		決算値(千円)		総事業費(千円)		職員数(人)		法定受託事務	今後の方向性	
整理番号	事業名	平成28年度	平成29年度	平成29年度	平成30年度	平成29年度	平成30年度		事業内容	予算規模
歴史-01	世界遺産条約登録事業	8,463	8,508	21,942	19,530	1.7	1.5		b	B
歴史-02	歴史的遺産と共生するまちづくり推進事業	161	1,099	5,050	8,734	0.5	1.0		b	B
歴史-03	日本遺産事業	43	201	6,523	13,537	0.8	1.5		b	B

(3) 主な実施内容

【主な実施内容】

- ①神奈川県・横浜市・鎌倉市・逗子市世界遺産登録推進委員会において、再推薦・登録に向けた次の取組を実施した。(歴史-01)
- ・世界遺産登録に結びつくコンセプトの再検討を進めるため、比較研究を行い、成果をとりまとめたものを準備状況報告書として文化庁に提出した。
 - ・やぐらの起源をさぐるため、龍門石窟研究院との共同研究を実施(学会会議等)
 - ・「鎌倉」文化遺産比較研究委員会開催、国内有識者意見聴取
 - ・講演会の実施(1回)
- ②鎌倉市歴史的風致維持向上計画に搭載した構成事業について、平成29年度の進行管理・評価を実施するとともに、歴史的風致維持向上計画協議会を開催し、進行管理・評価に対して委員から意見を聴取した。(歴史-02)
- ③鎌倉の日本遺産ストーリーを情報発信するため、日本遺産協議会で情報端末コンテンツの制作を実施した。(歴史-03)
- ④平成28年度に制作・作成した映像及びブックレット等を活用し、構成文化財所有者、民間情報誌、メディア等を通じて日本遺産に関する情報発信を行った。(歴史-03)
- ⑤①～③ツイッターを開設し、市民等に対する情報発信を行った。

【実施できなかった事業とその理由等】

- ②歴史的風致形成建造物については、「旧鎌倉図書館」を予定していたが、指定の案件となる登録有形文化財の登録有形文化財の登録に至らなかったことから、指定することができなかった。(歴史-02)

(4) 平成29年度の取組の評価

効率性	計画全体の推進に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	■ 適切	□ 要改善
妥当性	計画全体の推進に向け、妥当(適切)な取組であったか	■ 適切	□ 要改善
有効性	計画全体の推進に向け、適切な成果が得られていたか	■ 適切	□ 要改善
公平性	計画全体の推進に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	■ 適切	□ 要改善

<上記評価の理由、改善を要する点の具体的内容等>

- ・神奈川県、横浜市、逗子市と連携し、世界遺産の再推薦・登録に向けた取組を着実に進め、比較研究の成果を準備状況報告書として文化庁に提出し、市民に対する周知啓発事業や情報発信を行うことができた。
- ・鎌倉市歴史的風致維持向上計画搭載の構成事業を推進し、主に永福寺跡の整備が終了して全面公開に至ることができた。その他に鎌倉彫振興事業所の耐震改修工事が完了したことや社寺境内公衆トイレを整備することができた。
- ・日本遺産いざ鎌倉協議会事務局として協議会事業を円滑に運営し、関係団体、構成文化財所有者と協力しながら、日本遺産魅力発信推進事業の取組を着実に進めることができた。

3 評価結果や市民意識調査結果をふまえ、施策の方針等としての、今後の方向性

将来都市像である「古都としての風格を保ちながら、生きる喜びと新しい魅力を創造するまち」を実現するためには、歴史まちづくり推進担当が所管する事業だけではなく、市の施策全体に「歴史的遺産と共生するまちづくり」の考え方を反映させていく必要がある。日本遺産庁内プロジェクトチームや歴史的遺産と共生するまちづくり推進検討委員会等庁内組織を通じて、他事業との連携強化を進める必要がある。

また、市民の理解を高めるために、事業を着実に推進し、様々な媒体を活用して、個別事業の事業内容や意義について情報発信を行う。

4 平成30年度の目標

歴史的遺産と共生するまちの実現に向けて、鎌倉の魅力や価値を発信する取組や、鎌倉の歴史的遺産を後世に伝えるための事業として次の事業を主体に取り組む。

- ①世界遺産登録については、神奈川県・横浜市・鎌倉市・逗子市世界遺産登録推進委員会において、平成26年から実施してきた比較研究の成果をもとに、専門家等の意見を踏まえ、世界遺産登録に結びつくコンセプトの再構築の検討を慎重に進める。また、普及啓発事業や様々な媒体を活用した情報提供によって、広く市民等に発信していく。(歴史-01)
- ②鎌倉市歴史的風致維持向上計画を推進するため、構成事業の進行管理を行うとともに、歴史的風致形成建造物の指定を進めていく。(歴史-02)
- ③日本遺産事業は、国からの補助金が平成30年度で終了するが、歴史的遺産と共生するまちづくりを推進し、観光振興事業等に寄与することが期待できるため、協議会自立のための課題整理を行い、事業継続のために具体的な検討を進めていく。(歴史-03)

上記事業のうち、特に情報発信については、文化財施設課(鎌倉国宝館、鎌倉歴史文化交流館)と協力しながら、取組を進める。

5 主な事業における指標(目標ごとに1つ設定)

整理番号	歴史-01	事業名	世界遺産条約登録事業									
指標の内容	講演会等の実施回数							単位	回	指標の傾向	⇒	備考
当該指標を設定した理由 比較研究において得られた成果を含め、「鎌倉」の価値や魅力について公表する有力なツールであるため。	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31					
	目標値	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0					
	実績値	1.0	4.0	9.0	1.0							
	達成率	100.0%	400.0%	900.0%	100.0%							
整理番号	歴史-02	事業名	歴史的遺産と共生するまちづくり推進事業									
指標の内容	計画に登載した構成事業の進捗率							単位	%	指標の傾向	↗	備考
当該指標を設定した理由 構成事業を着実に実施することで、歴史的風致の維持向上を図るため。	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31	計画に登載している既存事業を含めた進捗率を指標とした。				
	目標値	-	-	50.0	55.0	60.0	65.0					
	実績値	-	-	45.0	52.5							
	達成率	-	-	90.0%	95.5%							
整理番号	歴史-03	事業名	日本遺産事業									
指標の内容	市民意識調査「鎌倉に住み続けたいかどうか」(市民の市への愛着度)の回答率							単位	%	指標の傾向	⇒	備考
当該指標を設定した理由 当該事業の実施により、市民が本市に住み続けたいと感じてもらうため。また、日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化を測る指標として文化庁が設定しているため。	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31					
	目標値	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0					
	実績値	84.1	83.1	86.5	86.8							
	達成率	84.1%	83.1%	86.5%	86.8%							

鎌倉市民評価委員会からの指摘

課題

・将来都市像である「古都としての風格を保ちながら、生きる喜びと新しい魅力を創造するまち」とは具体的にどのような街なのか想像が出来ないため、各事業の必要性・重要性が理解できない。

・世界遺産の再推薦・登録に向けた取組を進めるなかで、比較研究において成果を得ることが、新たなコンセプトを確立するための重要とされるが、進捗はどのような状況かが分からない。

・比較研究事業や普及啓発事業など行っているとのことだが、市民に還元されるまでに至っていない印象である。

・鎌倉歴史文化交流館の機能を工夫しながら活かしていくことが望ましい。

・鎌倉歴史文化交流館においては、鎌倉を訪れる小中高生が鎌倉の歴史・文化を学べるよう、展示内容を工夫してほしい。また、鎌倉市の文化や伝統を学ぶ教育機能として、工夫発展を期待する。

・風致維持、歴史的風土の保存のために、土地所有者や寺社、行為者等の風致地区条例及び古都保存法の手続、規制等に関する理解は市民にとって十分といえるだろうか。

・平成28年度の日本遺産に認定、その後の日本遺産魅力発信推進事業の推進はどのような効果を及ぼしているかが良く分からない。

・一昨年度の評価委員会からの指摘に対して「鎌倉の文化財の価値や魅力をこれまで以上に周知することができ、また、鎌倉の歴史的風致の維持及び向上を図ることができた。」と回答があるが、具体的に何が「向上」したのか。

指摘への対応、コメント等

鎌倉のあるべき将来都市像は、鎌倉の先人が築いてきた歴史的遺産や自然及び生活環境を守り育て、後世に引き継ぐとともに、市民が鎌倉に住むことに喜びと誇りを感じるだけでなく、訪れる人も、来てよかった、住んでみたいと感じるまちである。歴史まちづくり推進担当では、歴史的遺産と共生するまちづくりの実現に向けて、世界遺産登録、歴史的風致維持向上計画の推進、日本遺産事業に取り組んでいる。取組状況について、市民に情報発信し、事業推進に対する市民理解を深められるように努めていく。

平成26年度から進めてきた比較研究の取組により、鎌倉の価値がより明確になってきた。今後は専門家等の意見も踏まえ、イコモスが認める「顕著な普遍的価値」に到達できるかどうか、その可能性を見極めながらコンセプトの再構築の検討を慎重に進めていく。

比較研究から見えてきた鎌倉の魅力や価値を市民と共有するため、今後も神奈川県、横浜市及び逗子市と協同し、市民への還元のため、講演会等普及啓発活動に努めていく。

鎌倉の文化や伝統を学ぶ拠点として発展するよう、展示の改良・充実、特別展・体験学習・ワークショップ等のソフトメニューの充実にも努めていく。

小中学生に興味をもって鎌倉の歴史を学んでもらえるように、特別展のテーマの工夫、参加型学習機会の充実等、教育機能を高めていく。

風致地区条例及び古都保存法への理解と協力を求め、都市の風致の維持、歴史的風土の保存、緑地の保全を図っています。【都市景観部にて回答】

日本遺産では、これまで光の当たらなかった近世・近現代の歴史や文化を取り上げたストーリーが認定され、「日本遺産魅力発信推進事業」により、紹介映像及び番組制作、ブックレット作成、ガイド講習会の実施、情報紹介端末コンテンツの作成等を実施したことで、市内外に向けて、本市が誇る歴史や文化の魅力を、より深く発信し、理解してもらうことができた。

歴史的風致の維持向上を図るため、歴史的風致維持向上計画に登載した事業を推進しているが、一番大きなところでは、永福寺跡の三堂基壇及び庭園の復元的整備が完了し、全面公開に至ったことである。その他にも鎌倉彫振興事業所の耐震改修工事が完了したことや社寺境内の公衆トイレが整備されたことは、鎌倉の歴史的風致の向上に繋がる成果である。



提言

- ・「歴史的遺産と共生するまちづくり」がマンネリ化しているような気がする。新しい視点をもって、この分野の取り組みを実施していく必要がある。
- ・世界遺産登録ありきで施策が進められているように感じる。あくまでも、目標とすべきまちの姿の延長上に、世界遺産登録という目標があるべき。そのためには啓発ばかりではなく、市民自身に行動を促すのではないかな。
- ・世界遺産があるから、まちづくりのレベルも歴史、自然環境との調和をめざす、過度の観光客や交通渋滞の回避など、世界レベルにしていこうという機運醸成をしてはどうか。
- ・講座参加者から聴講前、聴講後にアンケートを実施し、意識の変化の確認をするとともに、世界遺産登録へのニーズを確認すべき。
- ・世界遺産登録事業が観光と結びついて進行するイメージが強いため、市民が後ろ向きになっていると考えられる。だとすれば、そうではなく市民生活に結びつく側面をアピールしながら、もっと市民を巻き込んだ取組になる工夫があれば、市民主体の世界遺産登録事業になり、世界遺産登録による「鎌倉に住んで良かった」と思う人口が増えるのではないかな。
- ・歴史的遺産、共生するまちづくりとは世界遺産、日本遺産のまちになることか、市民アンケートをとってほしい。
- ・日本遺産に認定された事を知っている市民はまだまだ少数であり、更に認定されると何がどう変わるのかを知っている市民は少数である。世界遺産認定についても重要であるが、まずは日本遺産についてもっと周知して理解を得、その上で世界遺産登録のメリットを説明すべき。



提言に関するコメント等(総論)

「歴史的遺産と共生するまちづくり」は、平成26年度に総合計画を推進する考え方の一つに位置づけられたものである。その後、具体的な取組を進めていく中で、平成27年度は歴史的風致維持向上計画の策定及び認定を受け、平成28年度は日本遺産の認定、平成29年度は鎌倉歴史文化交流館が開館に至るなど、具体的な取組を着実に進めてきており、マンネリ化しているとは考えていない。また、世界遺産登録事業についても、「歴史的遺産と共生するまちづくり」を推進するための具体的な施策のひとつであり、「登録ありき」とは考えていない。

引き続き、これらの事業を着実に推進していくとともに、事業間相互の連携を図りながら、新しい視点を持って、より充実した取組の推進に努め、歴史的遺産や自然環境を保全し確実に後世に伝えていくことで、市民が鎌倉に住むことに喜びと誇りを感じるまちづくりをめざしていきたい。

また、市民ニーズの把握については、これまで講座実施時に、参加者アンケートを行い、世界遺産登録についての意見をきいているが、27年度～28年度に実施した講演会等アンケートにおける「賛成」の比率は約50%～60%、29年度講演会での「賛成」の比率は約50%であった。現在、世界遺産登録に結びつく新たなコンセプトの構築について検討を進めているところであるので、具体的なコンセプトが構築された段階で、市民や関係団体と協働して啓発活動に努めるなど、機運の醸成を図っていききたい。

今後も、「歴史的遺産と共生するまちづくり」に基づく具体的な取組状況について情報発信を行い、事業推進についての市民理解を深められるように努めていく。

鎌倉市民評価委員会の評価

《評価できるところ》

- ・比較研究事業や普及啓発事業などの神奈川県・横浜市・鎌倉市・逗子市世界遺産登録推進委員会の事業を進め、再推薦・登録に向けた市民等の機運の醸成を図る努力をしている。
- ・鎌倉彫振興事業所の耐震改修工事が完了したことや社寺境内公衆トイレを整備した。
- ・鎌倉歴史文化交流館は、平成29年5月の開館し住環境に配慮しながら、市民等に親しまれる施設となるよう、市直営施設として運営・維持管理を行っている。
- ・鎌倉市歴史的風致維持向上計画登載の構成事業を推進し、主に永福寺跡の整備が終了して全面公開に至ることができたことは評価できる。

評価の内訳						⇒	委員会の評価
取組	↑	0	↓	0	→	7	→
効果	○	0	△	2	—	5	—

《課題》

- ・世界遺産の再推薦・登録に向けた取組を進めるなかで、比較研究において成果を得ることが、新たなコンセプトを確立するための重要とされるが、進捗はどのような状況かが分からない。
- ・鎌倉歴史文化交流館においては、鎌倉を訪れる小中高生が鎌倉の歴史・文化を学べるよう、展示内容を工夫してほしい。また、鎌倉市の文化や伝統を学ぶ教育機能として、工夫発展を期待する。
- ・世界遺産があるから、まちづくりのレベルも歴史、自然環境との調和をめざす、過度の観光客や交通渋滞の回避など、世界レベルにしていこうという機運醸成をしてはどうか。
- ・日本遺産庁内プロジェクトチームや歴史的遺産と共生するまちづくり推進検討委員会等庁内組織を通じて、他事業との連携強化を進める必要がある。
- ・世界遺産登録の講演会について『「鎌倉」の価値と魅力について公表する有力なツール』という認識のようだが、それなら年1回では少なすぎると感じる。
- ・「鎌倉に住み続けたいかどうか」の回答数を指標としているが、この目標数値に近づく為の具体的事業内容が見受けられない。
- ・「計画の推進に向けた考え方について」に多くの取り組むべき事項が具体的に示されているにも関わらず、指標が全く設定されていない。

《提言》

- ・神奈川県・横浜市・鎌倉市・逗子市世界遺産登録推進委員会の事業を進め、「鎌倉」の価値の再認識及び再発見に取り組むとともに、再推薦・登録に向けた市民等の機運の醸成を図ってほしい。
- ・イコモスが認める「顕著な普遍的価値」に到達できるかどうか、その可能性を見極めながらコンセプトの再構築の検討を慎重に進めていく必要がある。
- ・世界遺産登録に関して、市民の感心度はかなりトーンダウンしていると思う。本気で世界遺産を狙うなら調査研究はもちろんのこと、市民向けアピール事業が必要である。
- ・世界遺産登録に関しては、年に一度の講習会やSNSだけでなく、市民の多くが目にする広報誌、回覧板などを使って何度も何度も主張を繰り返すべきではないだろうか。
- ・「計画の推進に向けた考え方」が非常に具体的であるのに対して、その下に設定されており、本来はより具体的であるはずの（実施事業）に具体性が無い。
- ・「計画の推進に向けた考え方」が非常に具体的であるため、それぞれに対して「どのような方法で何を行った」、「何件行った」等を記載すると共に、それぞれにあった「指標」を設定すべき。
- ・「指標」にある「講演会等の実施回数」1回しかやらないのに指標とすべきではない。1回なら参加者数を「指標」にすべき。